

月刊 やちまなこ

2023. 9.15 発行

No.310

9月号

釧路湿原国立公園 塘路湖エコミュージアムセンター（あるこっと）だより



エゾベニヒツジグサ [*Nymphaea tetragona var. erythrostigmatica*]

今年の夏は所謂猛暑で、朝から30℃を超える日々が続いていた。エゾシカやアオサギたちは、暑さのせい湖に浸かって身体を冷やす姿が目だったように思う。

賑やかな夏の花々は暑さのせい、例年よりも終わるのが早かった印象だが、午後には未の刻に咲くというヒツジグサが純白の花を咲かせ、静かな湖に彩りを添えてくれていた。

釧路湿原のヒツジグサは、雌しべの柱頭が紅色に染まる変種で、エゾベニヒツジグサと呼ばれている。



塘路フィールドノート【8/15~9/14】

【野鳥】

夏鳥たちの季節も終盤。巣立ったばかりの弱々しかった雛も、幼鳥や若鳥となって精悍な顔つきになってきた。猛暑の8月末は、水辺で身体を冷やす野鳥の姿も多く確認された。



カワセミ (塘路湖畔)

狩場を決め、水面下の小魚を狙ってダイブをする美しい小鳥。カワセミ科。



タンチョウ (クチョロ線)

子育てもひと段落。雛が幼鳥となり空を飛ぶようになった。家族団らの季節。ツル科。



シマエナガ (アレキナイ川)

巣立った若鳥が群れていた。これから「雪の妖精」へと変わっていく? エナガ科。



アオサギ (塘路湖)

暑い季節は、こうやってヒシの島に身体を浮かべることがある。サギ科。



アオバト (クチョロ線)

「アーオ、アオアオアーオ」という声が森に響く。樹冠の枝先にいる事が多い。ハト科。



エゾライチョウ (釧路湿原)

5月号表紙の子供かも知れない。草藪から同時に4羽の幼鳥が飛び立った。キジ科。

【植物・菌類】

猛暑を迎えた今年の釧路湿原ですが、暑さもようやくひと段落しました。これから秋に向けて結実や紅葉、秋のキノコの不可思議な姿を楽しめる季節がくることでしょう。



オニユリ (鬼百合)

エソスカシユリよりも開花が遅く、8月に見かけることが多い路傍の花。ユリ科。



ツリガネニンジン (釣鐘人參)

釣鐘の形をした紫色の可憐な花をつける。花言葉は「誠実」。キキョウの仲間。



キツリフネ (黄釣舟)

ラッパのような形の花は訪れたハナバチに確実に受粉をさせるため。ツリフネソウ科。



エゾトリカブト (蝦夷鳥兜)

日本三大毒草の1つ。烏帽子のような紫の花が特徴。花言葉「騎士道」キンボウゲ科。



エゾヤマハギ (蝦夷山萩)

秋の訪れを告げるように山肌に咲き始める。秋の七草の1つ。マメ科。



ヤマブドウ (山葡萄)

昨年、結実した樹が今年も実をつけるとは限らないことを思い知った。ブドウ科。



ミズナラ (水榎)

今年のドングリの結実は、まだ小ぶりではあるが数は多い印象。ブナ科。



オニイグチ (鬼猪口)

グロテスクな見た目にも似合わず食菌とされているキノコ。イグチ科オニイグチ属。



ヤマドリタケモドキ (山鳥茸擬)

ナラ・カンバ林の林床に生えるキノコ。柄に明瞭な網目の造形がある。イグチ科。

【哺乳類・水棲昆虫】

今年は暑さのせい、哺乳動物はあまり観なかった気がします。その分夜の活動が多く、エゾタヌキやアライグマの群れに何度も驚かされました。水棲昆虫はミズカマキリ、コオイムシ、マツモムシが目立った。



エゾリス (塘路湖畔)

木の実がまだ熟していないのか、幹に生えた地衣類を無心に食べていた。夏毛は耳が短い。



エゾシマリス (釧路湿原)

レッサーパンダ風太くん顔負けの直立姿勢が得意なようだ。人馴れしていた。リス科。



ミズカマキリ (塘路湖)

水中の枯れ枝などに擬態して、鋭い鎌で小魚などを捕える。実はカメムシの仲間。

◎秋のキノコ観察会（シラルトロ湖茅沼蝶の森）

9月2日（土）は、北海道キノコの会から講師を迎えて、秋のシラルトロ湖・茅沼蝶の森でキノコ観察会を行いました。今回は図鑑の内容だけでは知ることのできないキノコの世界に理解を深めようと、参加者が自ら見つけたキノコの傘の形状、裏がひだか管孔か、におい、裂け方、触れた時の変色、また、樹木環境によるキノコの出現の違いを学びました。10歳から50代後半まで各世代が集まり、触れるとすぐに変色するイロガワリや、においが特徴のニオイコベニタケなど、名称と性質が合致するキノコをそれぞれ観察できました。その他、傘の無いキノコであるキツネノロウソクやキツネノエフデ、マクキヌガサタケ、ツチグリ、ツルタケ、ホウライタケやカバノキ科に生えるツリガネタケ、広葉樹に腐朽し、多量に食べると幻覚症状が出るオオワライタケなど約20種類のキノコを確認し、参加された皆様にも、キノコの奥深さを感じて頂けたと思います。



確認種 約20種 参加者 12名

オオワライタケ

キツネノエフデ

10月の自然ふれあい行事

事前の申込が必要です。

秋の紅葉を見に行こう

[日 時] 10月14日（土）10時～12時

[定 員・参加料] 15名 無料

[開催場所] 塘路湖エコミュージアムセンター

◎申込・問い合わせは塘路湖エコミュージアムセンターまで

ラムサール条約釧路会議30周年記念事業 晩秋の湿原野鳥観察会

[日 時] 10月28日（土）10時～12時

[定 員・参加料] 15名 無料

[開催場所] 塘路湖エコミュージアムセンター

◎申込・問い合わせは塘路湖エコミュージアムセンターまで

ザリガニウォッチ2～ニホンザリガニ編～

[日 時] 10月1日（日）10時～12時

[定 員・参加料] 15名 無料

[開催場所] 温根内ビジターセンター

◎申込・問い合わせは温根内ビジターセンターまで
(0154-65-2323)

秋の紅葉を見に行こう

[日 時] 10月15日（日）10時～12時

[定 員・参加料] 15名 無料

[開催場所] 温根内ビジターセンター

◎申込・問い合わせは温根内ビジターセンターまで
(0154-65-2323)

◆日出・日入時間 8/15(4:26,18:26). 8/31(4:44,18:00).9/14(4:59,17:35)

～ 指導員のひとり言 ～

■ 標茶町や厚岸町の酪農家を困らせていたヒグマ「oso18」が7月末に駆除されていたことが明らかとなった。累計60頭を超える牛を手にかけたとされ、累計被害総額は数千万円に登ったという。

今年の夏は猛暑でした。道内でも熱中症が原因で、幼く尊い命が奪われてしまいました。9月に入り、幾分気温は下がってきましたが、残暑は厳しいと思われます。皆さま、気候の変化による体調の管理には、くれぐれ、お気をつけくださいませ。

釧路湿原国立公園

塘路湖エコミュージアムセンター あること

☎ 088-2264 北海道川上郡標茶町塘路原野
TEL：015-487-3003 FAX：015-487-3004
E-mail：emc@kushiro-shitsugen-np.jp

Instagram [torokoemc](https://www.instagram.com/torokoemc)

開館時間：10：00～17：00

（11～3月：16：00まで）

休館日：毎週水曜日 12月29日～1月3日

入館無料